

人類の普遍的な願望—それは美しい字

「このままではイカン。」字が恐ろしく汚いのを自覚する著者が、きれいな字を書けるようになるまでのレポートのはず…。著者はきれいな字を諦めた後（諦めてはいない？）、色々な人の字を分析。汚い字には味があっていいかもなんて思えてくる。でも、政治家とプロ野球選手になりたい人はがんばっておくべきですよ。

書名：字が汚い！ 著者：新保 信長

おすすめする人：加藤 久美子

身近な骨が知らない世界を教えてくれる

「1羽の鳥は9ピースのフライドチキンになる」

「ダチョウやニワトリの骨が水に浮く」

私たちがよく目にする‘骨’について、意外に知らないことや進化論まで満載。

‘骨’って聞くと物騒なイメージも浮かびますが、素直に‘骨’っておもしろい！！

書名：フライドチキンの恐竜学 食卓の骨には進化のナゾがつまっている

著者：盛口 満

おすすめする人：樋口 杏

英国人の目に映る湯気の出ているような明治

伊藤鶴吉をお供に主に馬で奥地に行く。行く先々で民衆の好奇の目にさらされ、悪天候や蚊や蚤に苦しめられる。食事時に立てる音や沢庵の臭いに辟易し、雅楽の音は耐え難いと、実に素直で微笑ましい。イザベラが本国の妹に宛てた書簡形式だが、私はひいおばあさんから若い頃の話聞くような気がして、強い親近感を覚えた。

書名：日本奥地紀行 I～IV 著者：イザベラ・L・バード

おすすめする人：阪野 甲子

パンチラというラッキースケベの正体とは。

ただの「布」が見えただけなのに、なぜパンチラで男性は興奮し、女性は恥じらうのか、その正体についてを1930年代と今とを比較し書かれた本です。この本を読めば、きっと貴方の中にある知的好奇心が刺激されるはず。もしかすると、パンチラに対する貴方の思いが変わるかもしれません。

書名：パンツが見える。 羞恥心の現代史

著者：井上 章一

おすすめする人：道家 ほのか

平凡もリズムに乗せれば、それはドラマだ！

「私って、なんてつまらない平凡な生活送ってるんだろう」と思うことが時々ある。そんな時この本を読むと、毎日は気づきと発見の連続だと思える。平凡な日常でも、小さなこだわりを五七五七七のリズムに乗せるだけで、毎日が自分主人公のドラマのように思えてくる。さあ、日常をリズムに乗せて自分ドラマを謳歌しよう！

書名：短歌ください 著者：穂村 弘

おすすめする人：牧村 幸

生涯をかけて「好い日」とする

雨の日も、愉しめれば好い日。著者は、その事を知っていたと気付く。お茶の稽古場に掲げられた言葉『日日は好日』。何気なく見聞きした事が繋がり、本当の意味を知るに至る。その感動は、物事の表面で良し悪しを決め付けて大切な部分を見失っては味わえない。「今を真剣に生きなさい」姿勢を正して読み終えたい一冊。

書名：日日は好日 「お茶」が教えてくれた 15 のしあわせ

著者：森下 典子 おすすめする人：神谷 重毅

二人の愛は、闇に浮かぶ美しい世界の中。

大阪の商家に生まれた全盲の娘春琴は、美しく賢くしかし高慢な琴曲の名手。彼女には自身の世話の一切を任せる佐助という下男がついていた。ある晩、春琴は何者かに襲われ顔に火傷を負う。佐助にだけはその顔を見られたくないという春琴に対して、佐助がとった行動は…。苦しくて切ない、一途で盲目的な愛の物語。

書名：春琴抄 著者：谷崎 潤一郎

おすすめする人：今泉 奏恵

目に映るものはなに？

笑っている人を見て、あなたはその人がどのような感情だと思えますか。そしてその時、その人の周りには、どんな色、記号、図形が浮かんでいますか。人それぞれの見方があり、感じ方があります。この本があなたをいつもと違うものの見方の世界へ導いてくれます。いつもと違う世界、知りたくありませんか？

書名：か「 」く「 」し「 」ご「 」と「 」

著者：住野 よる おすすめする人：池下 陽斗